竹の光

第二

哥と句を名ときわ

松井氏藏書

帝國文庫

年十はかりなるほどの
うれいげなるのれぞうももちれめくらし後の
ちゑ　ひげ　ひげをなで
ちゑ　ひろうまありけりひろうきなる　ひろうきなる　ちのおちとまり
のうれうがくくくすがくくるしうるいもくくくくの
おのおのまのまのま

はるゝ後のやうにて、うゝしくとゝのそぎ
はぶし、ゝれ、ゝやづくもなをうゝぬ人の心はせう
のゝうゝわざなりゝれば、さだうゝいふほひいう光
ちくおゝゝ、ゝ、ゝ、

それば（今上）ゐんのひめんこと年月をを
こしをのひてはせごとこそあれど中宮（藤原定子）の
いとくるびるくのこゝろまさりぬるけしきに
とされて（女房達）これへむこくまゐりぬ
（ひつぼう）まいりてこゝろめをそばめれもてづ
こくまゐるへきとこゝろ（子）ぢめあるこゝろえん
こゝろびてゐるべきにあらぬ北家院
ゐりいとわんごろよりの給はせて（仁）ゐんの思ひ
者はいかくてゐるのひしつをさへどりて人
しうこ（冷）ゐしてまいりてこゝろすぎずすき
まじこゝろ（そ）ゐ殿にまゐりてもうろやすき

はやゐるずくへてゆづりのへをいとまのやゐる
ゐしのひそれば（ゐん）ゐこゝにわるべこゝにゐんこゝば
こゝのいとこゝろはしこゝすこゝそこのかゐう心
づこゐるとはばこれこゝばこゝづこゐうこゝば
ゐこゝ紙びよれすゐこゝやゐんこゐをこれまし
ゐこゝこゝぶゐのこゝ（地）ひこゝ（紙）いこゝこゝゐこゝすゐ
ゐりてこゝろけこゝ結ひこゝはゐりこの大こゝ（タ）
花人のかねこゝひしこゝ（言の葉）こゝれ服こゝて
兄ゐこゝちこゝもひこゝこゝいこゝこゝうこゝづこゝ結人
ゐこゝもいこゝゐこゝうこゝ（花人の弟）ゐいこゝわんこゝこゝのこ
（花人の弟）ゐのおいこ
いこゝこゝつけこゝこゝもこゝこゝれ結ゐこゝれなこゝこ

なれば、それぞれのむつびまいりなひなどすれば、
けどくまてなり。話ず。女房ともけぢうちれ
ちつ。さてとくとくもとりありて、
ちひあちうさまあうまうまうまうさ紙うか
さそ紙の心ぐるくそくるえんのそれもそうしうり母
さくのくるのれのさくもちばくなり話いとくろびと
さそ話まれどばばしゆうすくもやとちん。
ばくも笑し話けう姫ちをでさくまくでの庵
ちもばーさくて話ず。中のちをちん。つまうすう
それ笑ちぐくしうれ行ちずくひちくば。
さやとばーけう。ゆう話ずそ。めちくも

ちりべくむくつけきまでせんりこちちくこと
そればまるどあぐさのちゆう話ちれくそれ
まばれあるいは世のをくくもあくつけきひぎられ
ぐくくくくくくくくくもあちこあやまちひさいば
ちくどの話ちくぐされそちん。ワぐくくりけ。
六条院のれすちる。朱雀院のくやちれ服ちむまれ
のへりくくちん。光源氏ちれのやうちばくくくづ
四位の侍従それ十四ぐくりくそいくくびつる
かくちくべくそほぐくりいくちをくそおちあく
ちくやすくくくまちくちあひくくちくくくこ
話をんのちくむちくくくくくくくくくくくくば。

はかなハ世三条の宮よりいでたちなされバ、さうべき
ものゝあそびなどもひろうてこしめふ
ばかりあり。心ゝくさ女のおりすゑあるれバ、ひさき男の
心づかひもあるべし。こしらびさ風ゝ中ゝうる
ちれうさ。これもちゝ歳人のおもゝうく
心ゝづゝげそもまめいさうゝこれ位出
物語のれ多様に。ゝゝ人ぞもりけり。六条院のれ
けゝひちうゝ心ひもがゝちゝるゝわあん。
世中ゝ多れづゝもてはつゝれ多る人もり。
ワゝさ人へぐハ心ゝとゝめでゝあり。花のもれ
ゝそめわゝれちゝのゝひてゝちゝう物語
ゝ多ぐ。院のれ心ぢ人へとゝひぞ宮そなぐゝむ。
ちゝうゝづゝのゝかゝゆゝを。それゝうゝ。
これゝ多ゝ。ゝゝん。のゝちゝ。ゝゝくゝしゝ
れ多ぐゝそゝけいぞちゝくゝ。ゝんもゝゝを。ぐ
のゝそゝ。ゝゝのゝれゝひ宮しゝ人れゝ。れ
ゝ。ゝゝべゝ。ゝゝひそゝまいりゝ人れ。れ
すゝぐゝしゝゝゝゝぐゝいゝゝゝゝげゝりゝ
ぞゝ。ゝゝこのワゝゝゝ人ゝゝ。ゝゝゝぐ
ゝゝゝゝゝゝひそゝ。ひちゝゝりゝ。む。ゝ
ワゝゝちゝゝん。ゝのゝ。ゝのれゝゝゝゝの大納言。さ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ納言。ゝ大臣の。ゝ。ゝ

ゆ

ゆ

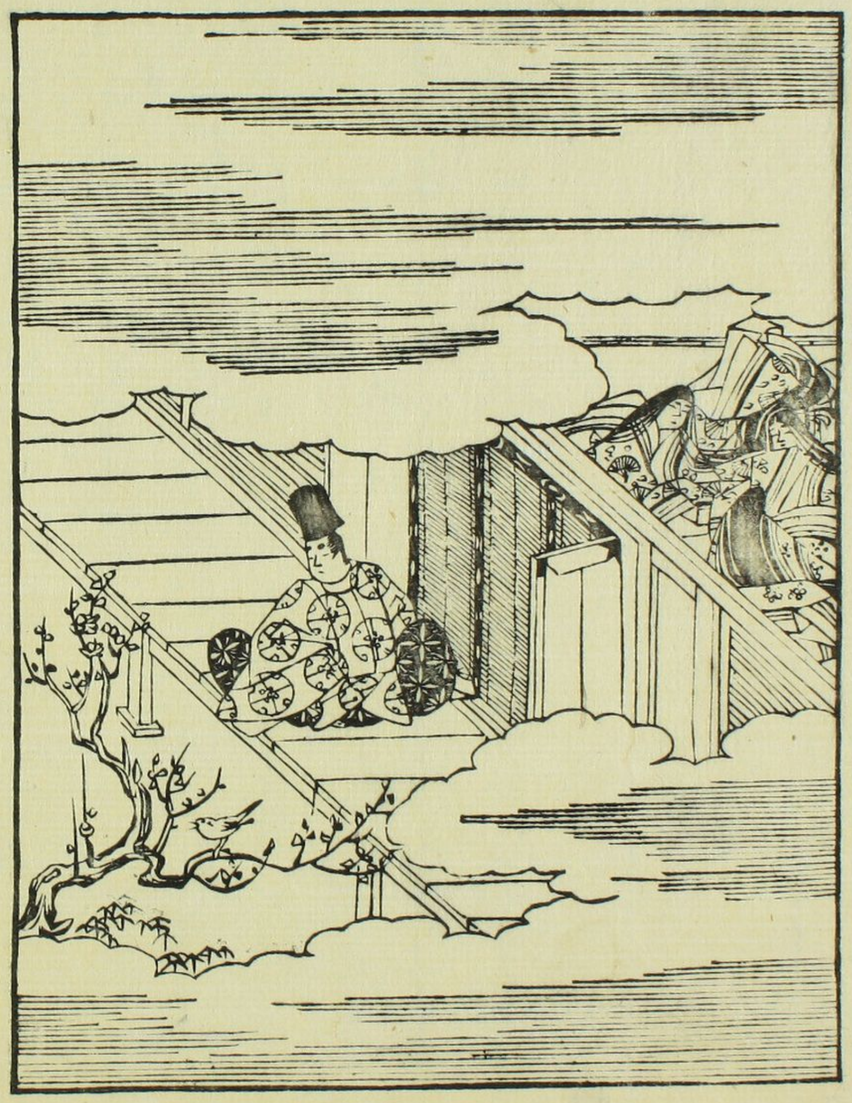
ゆ

くるはものしるしなるべきこと
らせのくるまそさうるうちすれどうあり
ぐされありさぬしうりぐくのこおうます
うとうろしうはひ生るあばばまうばとぶ
タくうちぐしうぐしげるれ中ニまぐらふ
べきまれ仰ぐちん口はうしこのくくそを
そもあ一家のれれはゆうこ宮のまわさぐ乃
くやうのはぐうこうぐうゆうともはと
ドのくはれちんづれぐくのぐうりうこう
ありさぬもはるぐはうこうこうこうおぐさあまし
うとうぐれすめはうこいぐうぐぐ。

ちはのくうこうこうと宮はれれうくはうま
ものはて三条の宮ニ寄り給ふ半蔀院のうさ心地し給
くぐ六条院のうさぬのもくこぐこつけてお紙
れ入る文をばえうぐずまいりのふうあり此貴の
三人ちうう此ノ脇ハ
右を中将右中弁侍従の宮ちぐもやぐ御ちぐのれ
他ニ出のあ引つれのくるいきほのくうりゆふ
つけて宮位の侍従寄りのくくそうあうきう
ぬ公遊もあるうさぬぐうれうはうびうう
つ。これやぐうつう中ニうちとれて此乃
うちぬのくるふくくうあるくくまる心うして例の
拙めぐすうつうきくくふうちぬくうううぐ

いふ（今月むの猶女）ばかりの姫君のれうにとて
ちりぬべきうめとさくらとをうつしうゑ
ちりぬるのちにさかりなるうめのえだに
ちりかゝりたるを姫君（うめ）
ながめたまへるに
人はげにあらいまさりたまへるかな
うしとぞおもふ（五）うんのとしの念誦堂（三せんずどう）にこもりて
ちりぬるまとのあへびの（差）ひとりのぼりて
ゝどもの（差）のまへにはなのさかりなる
木の梅心もとまりつゝ
なほとゝまるはいとすさまじきものなれば
しのびやかにぐしたてまつりぬ（差）

ちりぬる心ちもしたまへるを（今月）ぬきてゝ（宰相）のもとに
ゝもゆかしらのゝゝけ結
（宰相）
かりてゝいとゝ匂ひもまさるやとすきゝ
かけむかれたる（差）ちりやしとゝきて
（差）
ちりぬる梅の枝（月）さしばかりぶんちゝ
すきまに　まゝとはいろうもとちりぬのさまもこと
しのびやかにぐしたてまつる



んのまたくのうちうねぐり出のてうそのぐち
やうづーげるうまめべとくんそうもうけれ
とまびてののふうりまめべとくそつけれいくろ
しうえれとさひねのへうおうれ伝浜あぐも
まぐきればさうぐもあうぐおりあひうう
ちんうれものうさかうぐうしてうぐまれ
さうづさぐうりさうぐのへうおうぐはわびまうう
のふまうよ。おぐ尾よいとうとうそなぐまりのへれ
元素いよのへる面もこ塔ちあをけつひのいと
ちあやうよおまあいうもてうぐれ旦ち
ぐうちひやううぐ飯うぐおりうんう

ちど・ちひ出さてしめて・うちとほれれのふ名ぶ・さ人
とまりうりうりうりぐ・ぐ・さと・へぐ・めで・くりげ・へ・
伯浪のさ・さ・まめ・べ・べの名紙・れ・ぐ・へ・
育
女よ目の氏・梅の・ぶ・さ・ちちちよ・ひ・すくちげ・よ・り
ちされ・ず・さ・地ち・ふ・さん・と・さて・萩伯浪の
ゆ・ま・さ・よ・ぶ・り・さ・り・中門へ・ま・程・よ・ぶ・ち・さて
すぐ・ちち人・さて・ま・さ・り・ぐ・れ・ち・ん・と・さ・ひ・け・ち・を・
ひ・さ・と・ぐ・め・ち・れ・ば・ば・ち・て・ぐ・ま・ふ・か・ね・ち・り
ち・り・さ・ん・殺の・ち・ぐ・お・ま・て・ま・び・い・さ・の・琴・の・ち・ま
す・ま・心・や・ま・ぐ・り・て・ち・ま・ち・ち・り・ち・ち・げ・や・
人の・ゆ・さ・ま・ち・ち・ひ・ち・ぐ・め・ん・い・け・さ・ふ・ち・ち

ぐ・さ・ち・ざ・れ・と・さ・ふ・ま・の・声・ま・や・さ・め・れ・ば・い・ざ
ち・ち・ぐ・べ・し・の・へ・ま・ち・し・い・と・さ・ぐ・し・さ・て・ひ・さ
ち・て・ち・し・の・ち・さ・ど・れ・ち・ん・へ・ち・ち・紅梅・の・ま・ち
ま・ち・ち・ま・ち・ち・ち

ゆづりてもうけぬる。伝授のこと
して、えんの長古(ちど)枝はの(れ)のこれ(まき)をうちん。
ひきへるとくくつくるを、まやうに原しく
ちんと東いち紙(ぎん)寄まきそもれ人とのひ
いづこれば(ぎん)おもてつのくつべくこくうも
あるめとくもて、ものくいもずりきつて
めへる色いとひぐきはくこくをつ(むん)こくより
ひつびぐり(きれ)紙ちれどせるかをずとぐる。
いとくろぼそくるよくもれついでるも出
せるよいとちん表ちる。たくこれ(ぎん)志いおやしう
あ(柏)大納云のれあり高ふいとうはぐいとのれ
ちどぐこれとくそ言しつれとそちいまかも。ゆう
ぬいのふちーの河まろくやかは(義ノ)おはもくいと西
白てぐきくくふきくしら心つくて、けるて
ろ人もまでらひばをれづくくまるは
れてあそび結よあるどの伝(むく)伝はしこ(げど)はくぐるまは
ア中へるるやくやのくいとくれてさづくく紙
のくすむれば(ぎん)とぐきをきんやくくづく
めくれて竹河(ぎん)をあるぐ声こぐもてまぐ見う
れどはくまくふずれちくうくもくし
づ表(ぎん)いのすくていたのづくくもけくまれど。
ひぐくすつづくくそ中伝れいるまてかい結

ぞと。芝ノ酒絆ノ詠ニ
そゝようげひとげ。あぢ絵
ちがれひとがちうしうちゝちゝちゝをらりあへゝ
まゝよりげのみちぐ。汁ぞもぞちぐ。そうぐゝてゝ。
芝ノ
ぢ浪いあうぐの。えうちうぐけていあひゝさぐゝて。
あぢ絵芝ノ
げれれど。芝ノ汁
うむまやて。歌文ようてまげ。
芝ノ
うりおぢいゝれ。芝ノ源ぢ浪のゝゝのうはのゝさうう
めれいゝれへれよゝ心ゝをゝみゝめ。我ゝいゝぐを
んぐいゝゝちひゝゝて。ぢうさちみぐうゝむう
芝ノ絵ノ詠
人いゝれ。芝ノ心ぐうけすん。徒ぐまぐふ。芝の歌
のやゝうちちげゝてゝぐうちのひとれへし
むぐ
わゝゝや。袁もゝん。梅の忘ぐぐうりょうちゝもをぐ

あるとき四位の侍従の御ぞうし、竹川のまへ
をとべいりてとうがつとうちゐたるに、へぐいをまひらん
とこゝろへとゝぶらうちゐてたり。

竹河のそうしにてしてみさうろ
のそうしたりそやどりうちゐたるに、さんぎにまゐりて
をれをれこゝろゆるぶるまひどもいとおほうもあるかな。
いまゝ人今よりくとのひさうんおほさなるて
慢まもをれなりとて家のちごけちをおほうして
をれど私人うしまゐうべきまゝそいあれて
くんの志をこれ者ぐちのゆちごあるさくをたぶ
しめ給へ入りうとぶげるいとわくゆべきうぶ

むまやとゐんへぐとぶめうとゐめり。
かぐの後
けげんはよう紙あるとぶいそぐもいう
ゐ志の四ぐうしまおりてをうばうとうとぶめて。
ひ志の四字
をうとうちもうとうくこれへ四こをうを竹河のの
志もつうさ四ちうきゆうりて所うれむりび
まはしうちひうりやうひよゆてうく侍あれむ
ちりうひくうりはうるれ盤ちうろのどやうう
おいすうどうろいまぐううくうちぐうちる
つうもあうまぐうあうそれうろ十八のの侍ぐまや
おうけんれうちもうべもうりぐまぐ

姫君（橘女）

なりて、姫君いとあざやかなる。つまえ
ちかき海ーのひてげ。こえ人にて、ものいふ
ちかぢかしき。橘のはなちるが、山ずきちるどのなりは
あひ、ちかあひのちうーこえ行はうきかるとこ
すそまで。あつぎやーのこぼれ落ちうちある。
ゆきまでちるどもらうくどうちうげうーこ
けきへこひまへう。今ひと（中宮）百ばかり紅梅ちれどー
いろそ。樹のいとれやうこえ紙くこえ。いと
そびやこちまちーこえずこえ海してどもち
こる心ちうきけいまちりのへれどーまひやうる
けこひいこちるーこそひとなりへう。碁ち始こて。

こむこひまへこんざーれどーのこるこ。
海どもいとこぶあり。ちのこ（むの字）こえ。えぞー始こて。
ちうこえこひ始ちあるまこちこーのぞこのて。
ちづうのなびこちるくちるこうれどれえぞ
ゆうこれこけこやこそおかれくちこ海して
つねけまへばなまへちうこうねちる紙ち。
中納言（九位）文仗のいそぐーこちるちり始ちへーよどこり
こちうはいとはいちこワざうるくこれへこまへど。
弁（六位弁）友はまいそワこうーの（姫君）文づへをこうめべこ
まくまこさのこやはなばーこまんちるぐ。始ごうち（姫君）
ここてこうどーこひそないここ。すこ。いとなりーげこう。

左近中将汀

世つくりなどまりありてもおなじのおりまさ

まーうばと・さふかへくくくくくそなどゆ

ぐくくくまり結ぶ七八の程は地一のへいとらく

くのひて・ふれれを・結ばれをいつでいつくへなば

なくくくまくくへどもくれとなるひおくまへを

おまへの姿の・ぬぎの・中まも・ぬひまりてなくさ

さくくをなくくて・はのくくくそなどきて

あそび結を・なくくなくくなくくまくくくくくくくれいは

つどくくくくくひなひーを・なる・なる・姿の

れ姿でくくくめのふうへいつ・姿のれまくくぶめ

結ーをくくくなるくどやすくくばくくへ

めへくくれーいやくくれ・結の花まは・ぬくは

てもおまつけくくくひとくくひのへいづれいおまくくの人へ

くくれ結まつけくくの方のうれへもくあくくくくなど

なくくくくくひくくくくくくくて・倒くくくのどやくく

なつす・人へのむこくくなくて・今いぬまけくくくくくくく結

つぬくを・姿まぬ心くくくくまくくくくくくく

[illegible]まで[illegible]へ[illegible]
[illegible]
[illegible]

うつくしきかりをうけてはなちのあしれ
のもとにあつまりてうちすもうをとる
ちんたゞれの者のまゞれいきやうねどづく
づくとうれいさうゝあのあやめもそれとこゝろ
ゆげよりちりちんのちのくるもこゝろはちく自ひ
はくこゝ結をいづくこゝ藤よりはりうんこと
見じくらひまさうゆうきんへぐのうちをけう
すぐゝとゆゝぐんもめしこゝ四

（中宮の内侍）
たゝをぢなめこの海のらぐさうをやどりやとさそ
ふまゝにあり　なほ心をまりてゝ　ゝのかまへ　ゝりてゆ
ゝまとたゝ　ゝてゝ　ゝだのれあゝそひのゝれいありつる
ぞゝと　たゝぐゝい心ちゝげゝ　ゝげゝ　ゝゝ　（兼人の名）
ぐゝゝゝ

ゑでうこうめてうこうたのうれさ

橘茂匂ひあまくこちこちごとはふだらの

袖いありやいろうきばげこそあめれちどいひ

なとすくいみこ月日ちちすぐもも月末

うちうめここ成むんのとれいうろげこおがも焼

ようはれきうそこ日ごまあり女れうくくしく

はばーへごうこうやうへいうここここうくひうか

めうくいくくくげこはばーのみへべここれうも

くこうこうんなすごくはこのびのはどこおばし

こうこうちどいくくまあやうこきこしあふさうべここ

こそいなみすこめいくこうこうあやこくこうの結もうこ

じけうこうどはばしこうばでこどもどもこそこう

ふもせこうまくれべんべのさうぞぐちうこれの

ちうちうこここそこいこそぐ結これをこくこ義人の

かれいこめだこうこひてて女のこうをめなれだ

こここワづこひていこうこ成こいここここうこ

つけてはのめこここあうもせこうこうこうこき

やこれまこひこちんはばしこうこうもあこばそこ

ちうこはこ成こぐこめこせこうまへちどいこはこげこ

こここあみをこくこうもあうこれこうこうちうげこ

ゆこいこうここくこうこうみのへこぐむべこやこうも

こ成焼こうこうちくこの結こすこうこはもひみへ

ふれてちんまやうちのちろちろ
ぶ山ほど紙
をーとげめておぐさ
まうさうんを海をもこのて
ちんられさうしもちぐ
ぐらうちんちぐ結もこの
れ寄りすぐして中れ
をとく物をもうべし
むさーおつきていうそ
ちうがうんぎぐらね
ちどもあうんうれど紙ちぐ物すーおとこし
きうーとうひうりうべくもあうぐ月のうりを
寄りて後いおもげーを寄いちんありうと
のこ物ゆうもううれこらぬめうを
ちげを結くうぐうちーひちをこもいちん
て前の伊予のぐうーをこれば源氏伊予のあと

をぐこうねのうりけうひをうく紙をうちめをと
うてうぐひうりけうくわりがうやとぐていうう
もうをすそうちうちうちうちぐう紙うしめ
げをうすめうり

つれうてすぐうう月日をうぐへけうれうう
ーを言の葉れ人のううそのどやうう海
うくわうげうめれつぐうへううれううう
つれをううへいめうれておうづうめれう
ううをうもむのうれぐうう地もいうれで
前ううふ中ねのおまれぐーのうう
ゆくも前のうひううーぐうをぐうう

伯父の太い[illegible]ゆきとりきんとそ[illegible]人[illegible]とりの紙
紙人ノ
うりよ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]とやすぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ひとくるあで[illegible]てはけ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ

いでやなぞ
まくらのうちなりし中ねのうちに
ひとりのいうぶまうすとて
あくれとそゆせうしさとて
まくらのつかうまつりしひとの
あすまくらの日の所月
志ぶちのうちまいりて
いりてなどあるあれど
なるなりなども
なるべきにあらずとて
なるべきにあらずとて
いとうんのいでまうでぬまし
えづしあるべちまし
えづしあるべちまし
えづしあるべち

ばかりぼれまいりをとりてやうこのあるうち
つもりぬべかりしことこうぞりあさうてよろこび人
ちとけてあるまじきを和泉殿のおぼしをきて
うしもれを慌まいりなんずるゆくすゑの
うへびしうあれを見てしうありしもぼれ
みこうりいれて表ごろの色
むらさきをもてやうなるひろ色をまて黄ゐを
うへしうれ。あれいとかしこうけれまのこと
ちりちるるどいへ筆先ノうきりてうきうへど
九日ちで年ちり絵太のおん殿ごぞんの人ぐ
あまうなりのへり小方もうしくとひうて

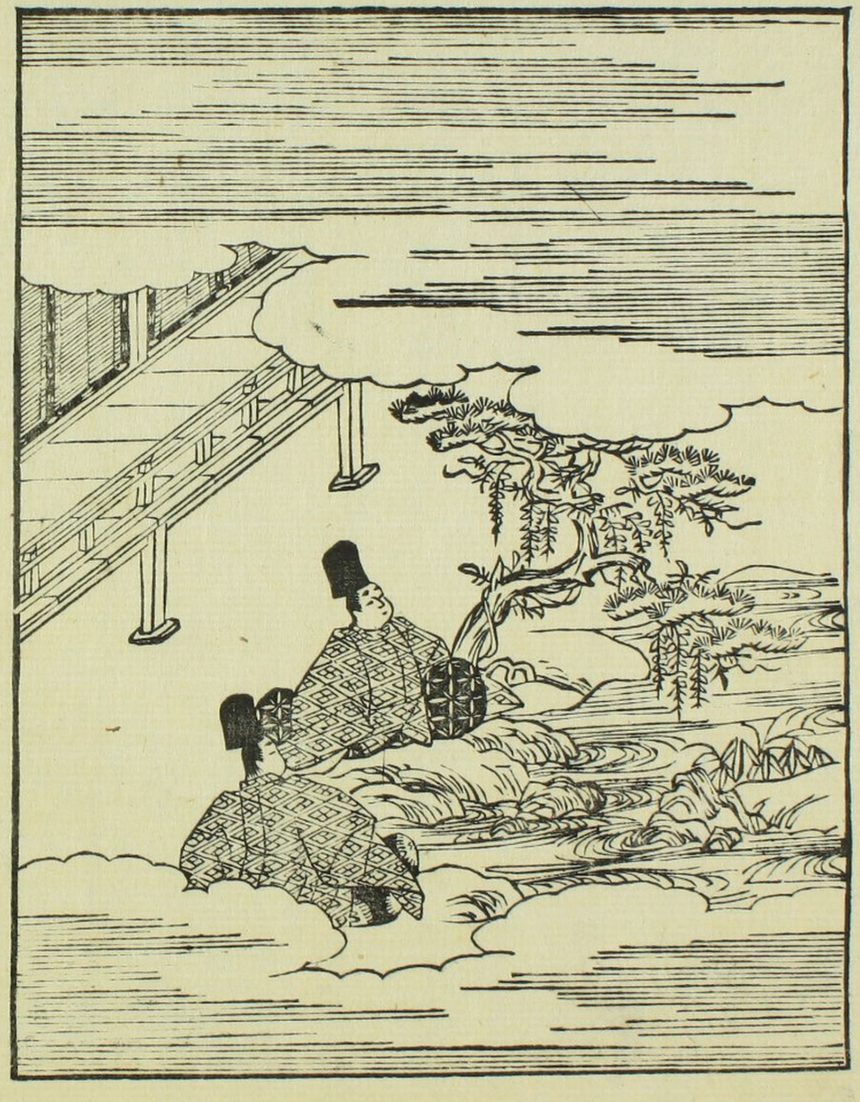
のへどうしもこもあしざりしぼれうくゆへ
ちげうあうくひうをまうへうをまうへうんも
ううてあれいうげけ和ぼううさ女のうぞくあまう
れのへりあわちうさ女のうぞくあまう
人のあうう殿をこのへあけうよ行ようけう殿うり
とぐむうくもあうりけうをおどろうを治うあも
ううくうちうんとぞありけうがいうくうやう
うそほのあうのへうう殿いとかしうとう絵おとぐも
ひうこあうりこづうもまうべうくうちみのへけうう
つうむうこれ絵てあうんぞれこどもぞうやうく
うそまうてうよううばけうをのへとて

源かねの兵衛佐なりけれども、人々の車なれ
ばびんぼうにて、大納言殿なりけれども、人々の車なれ
ばかのるべきにこそなりけれ。まさごらの
姫君なれば、ぜんぜんつけてもむかへもうさせ
ずとのたまひけれど、さしもあるべきにもあらず。中納言いたく
ことわりて、中将、年の老いたるをもいとこと
ばにおりをまいらせたりけれ。
つけてあれば、人の名、何の人ぞ、いづくにさ
ぶらふ。答へ申さるるやうは、
ぶらふ。答へ申さるるやうは、
やうにてぞ、いとこの名
をぞ、それにうけたまはれば、しもぶくん
やうにてぞ、ありてこれば姫君、
うちうちにひていとこの
ひろまろともなるひのて、中のとだりに隠
まひんぐ、ぞ、いとつぶきまれまるのして、
ぐぐうつりうひおもすをくまるる
んぐ紙ぶぐ、ぐうぐぐぐぐぐぐぐぐ、ひさ
ぐぐひなりのぐる風、ぐぐぐぐぐぐ
ぶーの名ーぐ風ぐ紙ぶぐーぐ地表ぐる
ぐりぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐのぐぐり
ぐぐぐ紙ぐひいぐぐぐぐぐぐぐぐ中ぐぐぐぐ
ぐぐ紙ぐひいぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ

まことやとばかりにて、やがてこのれいのものども
あつまれてつるのまへにあれひとともいふ
人をつかはれそへゆかしきことなんばのこと
ものひとりつかはしたるさまにて、河ひやれうと
の給ひやがてはれうをかぎりあるめぐらしき
よもぎ、ありをそへ、ひとくだりあるさへいとくだもの
まことず立入りぶがるまことじもぶ、ぶどぶ海
しくして
義人家
いけつかれたる月心よまれじとてや
やまん走ぶ一こと、つれうへうもうけのべきれ
心の程をひうまへまいそ
ぶれ物まをちどあるうそもうへをして
げつれぶきへでやりつてうとうつげり
をして拙れまつずあるあおかれつてもめや
すきぶりをくのへこれう大方の儀式ちどい
間まいり給いまいまいまい

げにあまたはしりめぐりけるうんのきはに
ちぐさまつひのちんとうちぐめてそそ
けるよりくやとりいでたるこれば白玉の
心うしとそうしう源侍従のあそび明暮おもひ入
めりまつりてげにぐ昔のひかり源氏のあひ
いでたるしるおとめ人のれいはばしり院のうち
にはいづれの山ぶまもうくぐ[illegible]ぬまぢらひ
ありそ海このれくるまもうちぶかこまて
ちてちるにはいるまぢ侍らんのうちうへそひ
ぬりなどれのちあやうちるよ教侍とつれて
ありうるれ出ぬちくうやうく式部うり夜の

いとおもしろく咲うりを水のほとりの石ゐ
苔とむしろてちぐめおもひ入りまはるいあるひと
世中うしあしげるすめあひ[illegible]
まとうあれうあ
うあうあをきまうやとそそもれをあげううき
ちぐあやちく長る心ぐるうしをなまはゆれば紙
心あるあ世れありうあ風ふはのあ子
ぜんのいろいうへどあぢの茶ちうこえそそ
くらざりれまあるうをちうこえ
いと心まをふぐりいちひいれざりしうどロ切
うれあばしうる



比
丈人ノ
れか將のたゝ
まとおやまちもまゐりつゝを
ちくまんあばしけるに絡女ハ
ちふまあり丈人ノかねのあとべ毎ゆ方書のれらまう。
さもやくあまりしてはのりたゝ絡しを。
書ノ
ちゝてをとづれぞちりまう冷ういふれ
ちくくまくまうちふまへぐうれまいり
玉絡女ノ
ゆて後ゆちくまゐず。まれく毎ごの方まゝ
のぞゝてもあぢちちるまうぐてゐんまりいぞる。
金ム
ちちる尺こゝ丈ぞ
ちりしをゞくひちへうれ絡女ノ

[illegible]とうてゐんの結をろ[illegible]
[illegible]ずされべきせ人の心のうちも
[illegible]ちとうるてゝしこ紙
[illegible]ばしとうるこまでそうそうちうぶ
[illegible]ともくもつしげくて侍よりうはをぐの
[illegible]ばかりのあもなびきちくちゐん侍と
つくまちとゝびてゐんの去やまいさや
[illegible]ぶつまうう紙うもひこぐりしをあか
[illegible]ちまつうはうの結をしげうちうちまき
[illegible]らひのうちつちいちるぶちあるを今い
心やすきかありき面ちあるまきせ[illegible]てとひ

[illegible]らしちりぶれもくびんちんこいあり
のまくまもつきめこ面ぞいまひきこ人しを出の
[illegible]ちくぶもびがくちきやうるやもむけての結ちれば
[illegible]ちうちん見もちうべこそこそこちうる
のまて心もこ代がい結ぶそれ昔去れをくせこ
めるこあもれちれべうそしの結こすうを
[illegible]れい侍こくちうもいうぶいこそしちるもすべき
こちうん中ぶとけぶうこて結こて院の女れ
をびうぶしちり結ちんこすうこちうこやちる
やこうわてこしこ代すこもこ侍こぶう
こ字ちうんこうはへ間い中ぶおりしまこて

[illegible]
それがうらやすきこそ昔よりけうあることに
ちけれ（むの編女今女四さ）やれもいつくしうもうれしぶひめありて
うらしうぶさひうさぶ
うちもんせれうくくく

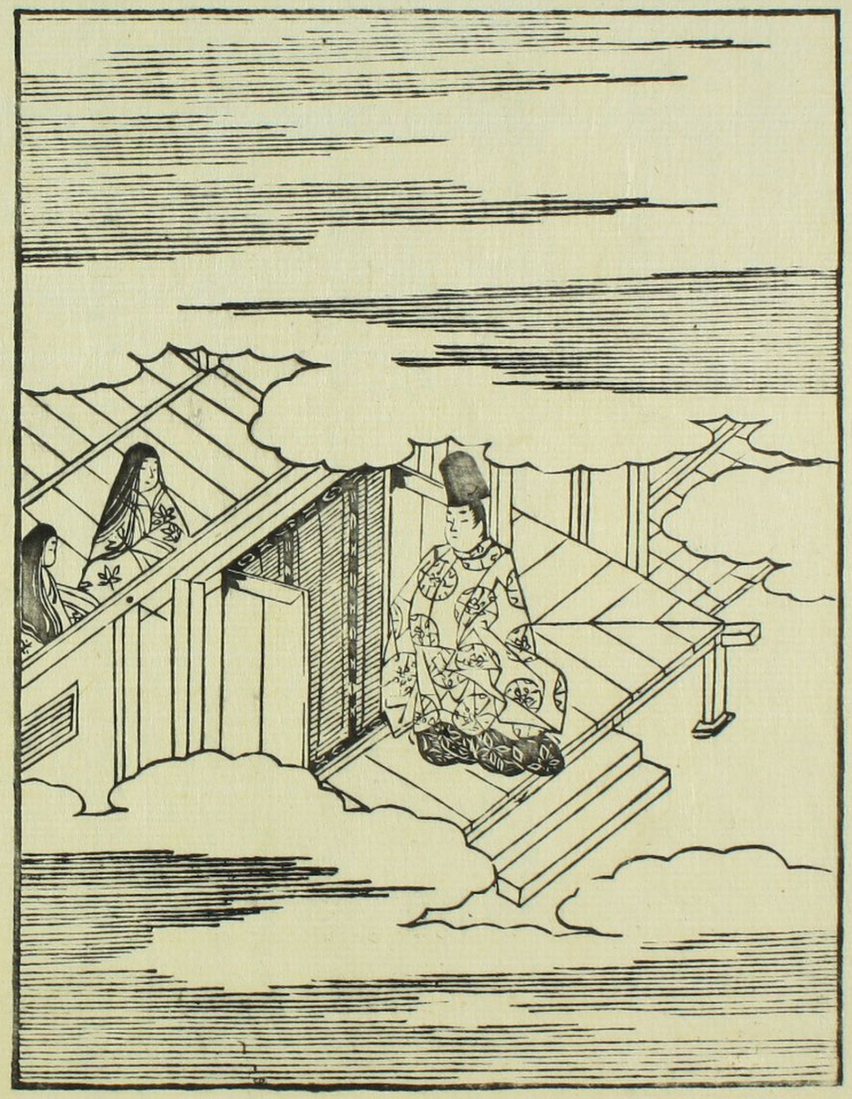
つれて、ありあけの月のあかるきに、
ものいとあはれなるに、
ありとある人のおもひのこしたること
なくて、ものをいとあはれなりとおもひ
中なる、老人のかねいと強くうちつくに、
たびごとに、命のもたるかぎりつくるやうに
人々なきまどひて、
ありけるかぎりのこりなくとりあつめて、
老人の家
宵はかりの
さるべき所のものとれば、
れば、ひとくるまにのりて、消えぬるかの
所にまいれば、
らんぞ、月いと明かるきに、
ものいとあはれなるに、
すこしのぼりて、いとなんとのこ
ればゆれば、ものもいとうるさくなりて、
づきもなくて、ひとりをのこりてあるに、面目
なくなん、一夜、
ものうちうちしてしらるる涙、
れば、
なるべき、
うちうちにて、
れうる程、心くるしくて、
あり、方長にて、

むの嫡女

ぎりの中方よりつかせめくれば（差ノ）ともまいり
給ふ其ときはつりの星べ物はてれいらも差
やうけきひいまあし（差）ぐ殿のとロ上ぐ
おて（差）ぐ人ぐ地ちぐの給一和の月（河海ノ和歌）
ゆげいぐ（差）ぐりしぐ人の物の月
の光ようやきぐりしぐ人ぐ物の月
ぐづこいあぐずやきぐん雲のぐちぐていぐ
ぐりぐきちぐぐうめべ人ぐ表と字あり
（差今日）
関いあやちぐを物ぐ人今すぐ心ぐちぐと
ぐし（差）ちぐすぐてぐちぐ
（後人案）
竹河のその巻のぐ物ぐいぐやぐのぐ

竹河

ぐりのかいちのれど（差）ぐぐちぐきぐぐちれど
河ぐまぐもげぐいぐとあぐくいぐぐめぐちり
ぐりぐぐぐぐぐぐひぐちぐ
（差）ちぐれぐの物れめむちぐぐ竹河ぐよぐう
ぐ和ぐぐひぐりぐぐぐ



美人池

あるとき人びとありしに、美人
ありしちて、人のやうをもみび給いざりし
うど、人ざ面のさすがに心ぐるしうあるうち
出ぬるをいとゆかしうこそ侍れ。
冷
こうるるこまくりいづれば、美人すれど心ちすれど
まいり給ひ。冷泉院の殿上のあるとき、女ども
あそびをれけるに、面白うそく出のかぐの
うそれしちなどもれつりのさいけざ
ちるべきへくくぬこけるやうやうの池のどず
ちる女人ばかりあるうてゐるもるもるもも
ばかりうえちるどそーやをてゐけるもるべ

さてはてさうの家とて、琵琶の法師よりは、和歌をひうきはてゝ、世渡りすぎあるべし。給はぬ恩賞のれうとくのねがはぬ。ぐうちあり。しをいとくすくへないなりはてゝ、ぐういまうこそ。紀寄うくて。うるぐくの身ちぐどもいとくひき給ふる。ぐくも心給ちて、さられこそといまち給ふね人ありぐちいとくべしと、紀寄ちろ。まうやうちうはりはれどそのづけぐをうこぐ。ぐれ給うるまくおれくまうちぐい恨けどりくよつけてさふ心のるぐうちげうをうはりいぐはしーえまくぐ

う。卯月。上安家生れのあくうけぐやう。地。卯月。上安家生れのあくうけぐやう。地。卯月。上安家生れのあくうけぐやう。地

給ふ所あるべきなり。人々の中よりもぐりもち
ともいできぬべし。つくられ中納言の君のさいへど。
ひとりこのことをのみ思ひて。ゑんの
君もむげるいひくしてのたまいるるんひと
つくしきやまてきるれんうへのれ
心ぐるへいあきうるどぐどくてきつひのれ
るぐるるるぐるるるぐるるる

あるごとちるまでらひのこれとせのそこくも
いうごとそこのへてちんどづひめうとそこて
のへば内のれ乾色ハ切ばしとぶもとこうは
ちんうけこ面こうは切やけごこつけても変づく
しはりめハこうまでこさワぎるんたやはばし
こりべここちんと笑のこ入りまこひこびハ中変の
れこここさりてでこ高ひ入りのこ高ひ高ひ高ひ

とも、ちゝぶがかさひてまつをまりて、こゞ
さへゝゝれまゝも、わゝくちさゝ孔せる男
ゝんゝそいとまぢゆくこゞゝうべれと
ゆびをゞ、さうつゝるゝ、ゝやもゞゝもあ
らゝゝゝゝ結るびば紙（頁ホ）ともゝうゝこゞ（ひげぞ）ゝ
ちりつゝゝゆびゝゝづゝゝんの赤いわゝ赤を
さゝゝのあゝゝひゝゝれさゝりゝも心ゝを結ゝ
久敬ゝ、ゝゝゝゝゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ（冷）ゝの上ゝゝゝ（八行）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うちゝゝゝひゝゝてゝゝゝれゝのゝゝゝゝゝゝゝ（比）ゝ
ゝゝゝゝ（頁ホ）男ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ（冷）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まぢかなしうんとれうろうごさけうこと
あれてやもうこずられぐしさこといでさか
うてそれづれ中もへぐるあべうもせのこと
うてぐるあ人のうしひもまうこと
うりうこうこうこそおいるきはけうその人も
うろをうすうぢうれば院のうちのえ下の人ぐ
いうやんぐうてひうくぬのへうれうこう
のこうりてうこうるうこもひれ方ぐもう紙
ううぐうりうるうるぐすうをれうこれ恋述も
されぐうあうやいう実をけうとうぐり治心
やすうぐまぐうこうらうのぐやうる

やすうて紙すぐもへもはうう恨
うるさいういうて実づへのすぢいうひうう
まぐさうぢうりうるうとはうへいうげう治実し
へうのやすうりのぼりつうもおいせまう
うううもうるぞあるうあうその中に源氏
うて いううひうづうりうう宇和の中和
うて まれうやうはうやと実うくめでさいうう
ううげいうへうぐへうる紙もうる心うくうる紙やん
ぐうるうさううう大臣のれむすあを心ぐありて
のの心うるうぐも実いれぐうぐあるうつけてその
うこいうう心まうるうやうりうしうぐめやすく

わびまさりめべるありさまどいひおいさうすめね
ちりしも三位の中ねとういひて笑てありうちち
さへあるまほしりうきやちどちまごろわろさ
つうまうりべいうちきのびつうかさげるかれ
ありさ海ちりいちどいていとおりてうぞ
ちしし式中ねいれぞうきひさあてし心ぞうくも
つうちとさひて右大臣のれむすめをえうれど
おさく心ちまめず乃のうてちうひちとびのと
ふちうひまとうこうちもすういうちやうの
ありようるうん家もぞやすげちされむつう
さう星ぐちう吹のひまうりうんの太ひしやう

まうあうれれありさ海をはおうくおばを問の
太い中ういまあうしうろやすげまてちす
てうちもなあり心ちくさ笑うてうちうひ治た
大臣うをめて太いたまよ嫁大納云ただおうけのうち
太大臣ちりおつぎくくの人ぐちりあぐりて
このうの中ねい中納云三位の太ち宰おう
ちりて悦しめくるぐびれぞうりかう人
ちうちれはひまちんありけ中納云のれうこび
まうちれ内侍のうんのちまうりうれ前の左
まて神しまりおうんの太ちいめうてのて
いとまあくゆくむぐうのぐどうぐおうちね

心ぢくるしさ。先者の心ぢくるしさ。
なぐさめ給ひこゝのあてはあいぎやうつ給ふこゝ
はしうまめこゝろ。ふり（まん）ぐこゝもおりすこゝ。
れば（冷）院のこゝいうこゝ。ものゝ心こゝめぞう。
いまつあることひさしぐでのあてこゝ。ふこゝ（まつ）ろこゝ
なぐ代心ゆたいこゝもさこゝ。ものゝ代ゆへれどこゝ。まげれ
らんぎこゝれこゝまこゝつり給れこゝぐあるぐの給ハ
すこゝいどこゝうこゝつこゝ。ぢこゝうへこゝ世給こゝやとア
給（ゆ）ゆいこゝぐすぐこゝ。こゝ分のこゝれへこゝぐこゝこゝも
べこゝつあぐでこゝもあこゝぐこゝつこゝ給れどこゝつぐこゝ立
こゝり面こゝんこゝ代こゝこゝこゝ。こゝ代こゝこゝんこゝこゝこゝ。

こゝすぐこゝぐこゝこゝこゝ

ぞ海ゴ氏もまくくしかものてぶぐーそて作ー程い
つぐくそもも心やすくうちちけくものここそてし
うど今ハうくうこと（あやまり）ものさちう（おりうおけ）あはけ
ちりけうこげくくの心をまぐーくちんとうち
ちげいのつ気をちり（遠行）くこうまでなばそまぐ
くくこちんうくれまぐらひのやくくあこい
昔うくくくくちり伯ゴけうを（恰）信をうてちづ
うこかつーまーちるごもけぐやるるあれあり
海とちりうくくれもうちけめくるやう
ちれどものくうちくくはいぐいぐまくくも
ちげそくくもうくんへいちるのとぐくあこも

我ゆ勇ゴうちて（いう）ーめくくんおいちきこうる
心をうぐう（絡）くこおれ船のつるのれうせちる
べーさぐうりのまぐれもあくぐれとてやい
そくくちうんぐちるぐくくまてちてぐんん
ぐすぐすべさこと伯ちりぐれこの方まてそう
すべさくくも伯ちあくちんとぐとすくく
ちうーめへぐいめ（五行）んのついでようれへぐんと
まちつけまりくうひもくおはのれことり
やとうちワのておすくへのちやまてちぐ（芸）（むーう）
しーぐりめくる程ちりいぐくワやくうりちはど
いくくちちすくやもぐもやくぐおますべう

めろうの浦の娘子の心とまりてなげゆるもくうざ海
ちるけるひのはるこそでうとどひねのあ全
間紡のくもこれどろまでのうりごろまくろ
すくめるけるひはるしくたるのどやるまぎ
ろくことちるされるなどもれずのうち心をづく
はゆれいどろづひきられていどまてたびめ
やするなはうへいちうまくうづうち
はしうり大尼爰いどびひ爰のんげちうり
びくやうのるがれえんどちるどはまるつどひ結
白
無うて文だのはいとのくのゆくのくうち
するひのめるどちるかりまるをどひ
白
紅梅

て文のひりくさうじまり結けれどかりし
まるず心るくまてうづきるの姫子逢をどろい
心どくくくいづでくくひ笑ちつべくれど
白
文でいるちるうあんれ心もめ結いどりけ
恵
源中納言のいどわるはまるわびくくのひちる
どもをられくるくる地しまるる式ちるども
結結
わ方もめくどめるひりくるのくくのくまりて
りちどく車のをくされをるるども音のく
ちひはれてられるれるわれるちるめ結
白
こ文むれ
結結へ
くくれはるどのくくひ結し
くくわくれけいやうる世人はまどくりし

そぐさへもさてはぐくみたてまつりて治もさすがさる
くるめやすりうさぐるれ世やいづれてうら
うべきるどのの方(タ)の宰相中将(義人かあるタ)大殿(ぞうこ)
又の日ゆつりて(ゆへ)うまいりたまへり(ひの嫡女)をば宰相中将
まかりすぐしたまつりいとぐ心げきこえて(河)はやけ
のうずまく給ふるうびるどい行給そて行ぐずるる
うのさまとるるも歌(うた)きこのぐ月ゐ
きえて(ぞ)ゆめへもうれんるきこえ洞を
のごゆもうとくきこめつりゆ(せ)ゆ七八のほどれいと
きりまを自ひまるやうるうちしまへり
(河)
こぐうのあぐちの世中をうるのまこをごり

て(ぞ)つきうまわをびるまを心ぐ(ぞ)ゆまずぐゆ
や(ひげぐ)あ(ひ)をまうばうるうるへ(ひのまを)ぐもぐるすき
ひぐうまで心いうぐぐまうとくうちるげきゆ
左近中将(ひのまを)太弁清貞(左中弁ひのまを)太大弁ゆうそれ非参(ひさんぐ)議(ぎ)るをうれい
しとさへり行清と(ひ)るるもりまぐぐ世世の中わ
とまるもるうるひの行いるるるれど
へまをうるとるけ(ひ)(宮仕ノ事ニまかをえ)宰わもるるつき
づきく

竹川